

福澤諭吉記念慶應義塾史展示館だより

Tempus

Tempus Fugit — 時は過ぎゆく



FUKUZAWA YUKICHI MEMORIAL
KEIO HISTORY MUSEUM

No. 10

Jun. 2026



上写真は、明治34年2月8日、葬儀会場の善福寺に向け、塾構内を出発する福澤諭吉の棺を載せた輿と葬列（福澤大四郎「父諭吉を語る」より）。
下は、125年後の同じ坂道の朝の風景（2026年4月、吉岡更紗撮影）。

光陰如矢 かつてと今と

福澤諭吉の棺が三田の山を後にして125年

明治34年（1901）2月3日午後10時50分、福澤諭吉は三田の慶應義塾構内にあった自邸内で息を引き取った。その葬儀は同月8日、菩提寺の麻布山善福寺で執行され、生前に本人が定めていた通り、棺は大崎村の本願寺墓地（現在の常光寺）に葬られた（後に善福寺に改葬）。

毎日学生が行き交う三田キャンパス東側の坂道を、125年前の葬儀当日、福澤の棺を載せた輿が下りていった。その葬列は1万5000人にふくらみ、先頭が葬儀会場に到着した際、末尾はまだ塾を出発していなかったという。その中に、福澤の女性の地位向上の主張に感謝を表する一般女性の姿が多かったことも語り継がれている。福澤の思想を集約する言葉として「独立自尊」の語が誕生したのは、死の前年。その思想は生き続けているのだろうか――。

学びの城を受け嗣ぎて

— 塾監局改修工事により出現したモノを通して考える

福澤研究センター 囑託
酒井 俊輔

右の写真に写ったモノは、今般の塾監局改修工事の際、収集された竣工時のこの建物の一部である。建物のボルト？ネジ？否。思わぬ発見は、この建物に賭けられた情熱を示す「プライド」の一端といえるかもしれない。



今から遡ることちょうど100年前の1926年9月、大きな被害を受けた関東大震災からの復興の過程で、三田山上に淡褐色のスクラッチタイル張りが特徴的なゴシック建築、塾監局が竣工した。塾監局の建築は、内外装ともに曾禰中條建築事務所が担った。同事務所は、戦前には日本最大最良の建築事務所とも評されており、塾監局以外にも義塾の建築物を多く手掛けていた。

昨年9月から今年2月にかけて、この塾監局において大規模な内装工事が行われた。常任理事の増員への対応やセキュリティの向上に伴うものである。もとより、塾監局の工事は初めてではなく、今日に至るまで大小合わせて少なくとも16回の改修工事を経ている。竣工当初は1階に事務室、2階に塾長および理事の執務室や、研究室、教員室が置かれたほか、3階は教室として使用され、地階には学生控所が設けられており、今よりも学生生活に関わりの深い建物だった。3階の大教室は、三連の黒板に立派なゴシックの装飾がある風格のある部屋で、三田演説会が行われたり、国内外から塾した要人の講演会が行われたりすることもあった。

しかし戦後、塾監局の役割は法人本部としての事務機能と塾長・常任理事の執務機能に特化され、学生とは縁が薄くなった。大教室は黒板周辺の装飾だけが保存された上で区画が縮小され、第三会議室と呼ばれる部屋になり、他の教室もGHQなどの対応をする渉外室などに姿を変え、その後も何度も改装された。曾禰中條建築事務所が手掛けた竣工当時の内装はほとんど失われたと考えられていた。ところが、2023年に塾監局2階の改修工事が行われた際に、内壁や天井、絨毯を剥がすと、1926年竣工当時の内装が再び姿を現した。その詳細は『慶應義塾大学(三田)塾監局2階塾監局会議室 記録調査報告書』にまとめられている。

今回の工事でも竣工当時の内装やかつての利用の痕跡が発見される可能性があるとして、工程の節目で、福澤研究センターやアート・センターが視察したのはその経緯を

踏まえてのことであった。

冒頭の写真は、建築用語で「玉花飾り(=ball flower)」と呼ばれ、英国のゴシック建築の第二段階である盛飾様式において現れる装飾であり、主にモールディングと呼ばれる壁と天井の境界の装飾や、窓枠に等間隔に施されることが多い。この装飾が、かつての大教室の空間に多数姿を現したのだ。実際に過去の写真で、大教室の梁に、等間隔に並んだ玉花飾りを確認することができるが、これまで誰もその存在を意識していなかった。



塾監局一番教室における野口米次郎の講演
(第572回三田演説会、1936年4月28日)



工事の担当者によれば、今回の工事に当たっての調査で、この建物が随所に強度を増すための工夫を凝らしていることがわかり、その頑丈な作り込みに驚かされる部分があったという。そういった表に見えない構造上の仕事ぶりに加え、外部の装飾においても、忘れ去られた丁寧な仕事、このささやかな装飾からも見て取れるのである。ゴシックの学校建築では、1年前の1925年に、内田祥三設計の安田講堂が竣工している。社会的な認知度やその圧倒的な存在感、規模では比較すべくもないが、曾禰中條建築事務所によって、この三田の丘の中枢として瀟洒に、端正に作り込まれた塾監局建設の丁寧な仕事ぶりが、この装飾にこめられていると言えるのではないかと。

残念ながら、今回の改修で、竣工時の2、3階の天井は工程上、改変を避けられず、失われてしまった。しかし記録のため、玉飾りは4点が、他のいくつかの竣工時の意匠のサンプルとともに福澤研究センターに保存された。

これらは、私立としての慶應義塾が、数々の民間の仕事を手がけた日本の建築設計事務所の草分けである曾禰中條建築事務所とともに100年前に示した「プライド」が、再度現れたモノだと言うべきである。その思いを載せた「学びの城」を次の100年へと継嗣し、大切に使い続けていく義務があるのではないだろうか。



春日神社からの三田の眺め

鈴木 寿美子 (旧姓・三笠)

私は昭和8年3月、三田通りの春日神社の娘として生まれました。父の三笠嘉友は慶應義塾に学んだ人ですが、物心ついた頃から神職の装束か和服の姿しか見たことがなく、「ウソでしょう?」と言ったら、ペンマークのついた帽子を出して見せてくれました。春日神社と慶應の境界の石垣を作った時、福澤さんが立ち会ったという話も聞いたことがあります。

姉の幸枝は十歳ほど上で、お嬢さんを迎えてその方が神職を継ぐはずでしたが、戦死。そういう神社のために、戦後、女性神職が許され、姉はその第一号の一人として國學院で資格を取り、宮司になりました。

昔の春日神社には、今の石段のほかに女段と呼ばれる緩やかな階段があり、その下で蠟石でケンケンパを描いて遊んでは、よく爺やに叱られました。社務所は父が凝って建てた広い建物で、慶應の謡の学生さんたちが白足袋で稽古をしていて、学校帰りに石段の下から声が聞こえたものです。夜間部の学生さんが一斉に石段を下りてくる音は、まるで豪雨のようでした。

私の通った南海小学校は、三田図書館があった場所がありました。慶應の塾監局前の庭は放課後の遊び場所でおっかない髭の門番の目を盗んで遊びました。図書館裏の大きなイチョウに登ったら、「寿美子ちゃんがいなくなった」と大騒ぎになったこともあります。演説館の崖でもよく遊びました。けれど戦争で、あの立派な正門の門扉も金属供出に出され、みすばらしい木の扉に替わってしまいました。

おらかな時代で、蜂須賀さんのお屋敷(現オーストラリア大使館)の前を友達と通りかかると、番をしているおじさんが「しばらく誰もいないから」と、家中を見せてくれました。私たちとほど遠い家の様子を驚いたものです。その塀にあったご弊を担いだ猿の彫り物が印象に残っています。近くに海軍の軍楽隊もあり、指揮者の内藤清五さんは信心深く、父と親しくしていました。

三田通りのお店も懐かしいです。お菓子の青柳、金文堂書店、古本屋の清水書店、豆菓子の大黒屋、漢方薬の道明



商店。道明さんでは肩こり治療用のヒルを売っていて、血を一杯吸わせたらぼろっと取れると聞き、気味が悪くて行かなくなりました。藤波紙店は同級生の家。多田質店にもよく遊びに行きました。赤羽橋寄りの、タケノコ飯だけの狭いお店にも父とよく行きました。

戦争の終わり頃は栃木県川治温泉に集団疎開しました。卒業が迫って六年生は昭和20年3月初めに戻り、すぐ東京大空襲。神社の高い場所から、ぐるっと空が真っ赤に見え、それが迫ってくるようで怖かったです。三田はその時は無事でしたが、5月の空襲で社殿も社務所も御神楽殿も、ご神木のケヤキもみんな燃えてしまいました。

その夜、私はおみたま(ご神体の鏡)をリュックに入れ、父と逃げました。母は絶対に山を下りないと言って、焼夷弾の火を叩いて消したそうですが、崖下からの火はどうしようもなかった。三田通りは赤羽橋のほうから春日神社まで焼け、慶應の門の坂から南側は焼け残りました。

私と父は慶應に逃げ、塾監局の裏口から地下に入ったと思います。狐のかかったものを兵隊さんが運んでいるのが見えて怖くなり、裏の坂を下りて神明宮、中の橋の方へ逃げたのかしら。芝公園に着くと、増上寺の五重塔が緑色の炎を上げていました。父が「あれは銅の燃える色だ」と教えてくれました。夜明け頃、イタリア大使館のお庭にいると、近所の人が「今、寿美子ちゃんちが燃えているよ」と教えてくれました。あとには金庫一つ。中にあった少しの神社資料が燃え残りました。鳥居も壊れ、その残骸を白にしてもらったものが、今も境内にあります。

家がなくなっても、母は焼け跡にバラックを建てて住みました。私と父は目黒の春日神社や、演説館下の堀越整復院の畳の部屋をお借りして暮らしました。三井倶楽部を接収していた米兵が、簡易保険局の広場で地元の人の盆踊りを見ている光景も、印象に残っています。

(2026年5月14日聞き取りから構成)



今もオーストラリア大使館の塀に残された猿の彫刻





()=館からのレスポンス

寄せられた声から 企画展「北澤楽天と近代日本—福澤諭吉、MANGAの扉をひらく—」の感想

普選選挙ポスター(慶應義塾図書館所蔵)の楽天作品を展示すればなお良かったかと。(今回は政治関係以外に重点をおく意図があったため、漏れてしまい申し訳ありません)／ギャラリートークを聞いた後に展示を見たらより深く見られて良かった。当時の状況を想像しながら絵を見ることができました。／メディアの一覧表(年表)があると良かった。時事新報と時事漫画の関係性が少し分かった。／北澤楽天さんの作品は全て少し不思議でおもしろかった。／ぼくはマンガ好きで明治からあると知ってすごかった。／ユニークで明るい感じで展示されていた。／北澤先生の展示、大変おもしろかったです。／空きコマで来てみたのですが、とても皮肉の聞いているセリフと迫力のある構図と、目の前に想像できる生き生きとした絵が印象的でした!面白くて、来てよかったです!!／大変面白く拝見しましたが、なかなかの分量で少し疲れました。／とてもコンパクトで見やすい。／福澤諭吉—時事新報—北澤楽天とつながるとは思っていませんでした。／小規模ながら密度の高い展示で解説も詳細で勉強になりました。／写真撮影OKなのがとてもありがたかったです。当方大学教員で講義で使います。／楽天が私のおばの実家に疎開されていたので、その頃の話をご宮城県に行くたびに聞いており、なつかしく思い本日は来場しました。町の人たちには手ぬぐいなどにも気軽に絵を描いてくださったそうです。／マンガの展示のために、この大学に初めて入りました。良い企画でした。／根本進さんの絵柄をマネたイラストをプリントしたファイルなどの配布があったらいいな…って思いました。

常設展の感想

塾生時代を思い出し、懐かしさであふれました。／この年になり実学を活かしてこそ意味があるとおっしゃっておられたこと感銘を受けました。／有料で建物ガイド+お茶セットがあれば嬉しいです。／自分で人物をタッチするパネルに興味をひかれた。／社中 who's whoの説明をもっと増やして欲しい。(収録者を今後さらに増やしていきます)／模型が今の慶應と全然違って面白かった。／福翁自伝を読んでから展示館を視察したことで福澤翁の事績をビジュアル的に理解できました。／自分が今考えていることの参考になることが多くあり刺激になりました。／パズル類の展示方法がよい。／建物自体が文化財なので重みがある。早稲田のmuseumに比べるとやや地味だけれど味がある。／福澤諭吉の気さくでこだわらないというお人柄を知り大変興味を持ちました。早速、翌日書店で「学問のすゝめ」を購入し読み始めております。／非常に良かったです。一日でも居ることができるくらいに。／部外者にも開放して下さいありがとうございます。／開館5周年、おめでとうござります。様々なものを拝見しましたが、本日の展示資料等は大変参考になるものばかりでありました。／とても良く出来ており、各々の時代背景と合わせわかりやすかった。／自由に見学できること大いによろしい!／近代の貴重な資料で、状態も良く、展示の資料も分かりやすかった。／建物が素晴らしい。ステンドグラスが美しい。ペンは剣より強しという言葉が改めて胸に刻み込まれた。／貴重な展示品や分かりやすいパネルで大変良いと思います。／とても充実した展示、感心いたしました。さすがケイオウ!／まだ大学生ではないため深く理解することはできませんでしたが、福澤さんの生い立ちや歴史について詳しく知る機会になってとても勉強になりました。今後社会で歴史を学ぶ時も出来事のつながりを意識して学んでみます!／スタンプなど、こへ来た思い出を振り返れるものがあったらよかった!

企画展示室の今後の予定

2026年秋季企画展 熊楠と諭吉(仮)
2026年10月15日(木)～12月12日(土)
慶應義塾福澤研究センター 新収資料展2027
2027年1月10日(日)～2月6日(土)



当館常設展示室受付、カフェ八角塔、
三田インフォメーションプラザのほか、
慶應義塾公式グッズサイト (<https://keiogoods.jp/>)
からもお求めいただけます。



既刊図録より



開館記念図録
2026年/550円



慶應義塾と戦争
—モノからヒトへ
2024年春/2500円



藤山一郎がゆく!
—「若き血」から国民栄誉賞まで
2024年秋/1400円



ある一家の近代と戦争
—上原良春・龍男・良司とその家族
2025年春/2500円



北澤楽天と近代日本
—福澤諭吉、MANGAの扉を開く
2025年秋/2000円

基本情報

開館年月日 2021年7月5日
空間デザイン 横総合計画事務所
展示設計製作 株式会社トータルメディア開発研究所
床面積 常設展示室: 280.44㎡ 企画展示室: 60.99㎡

スタッフ一覧

館長/平野 隆 副館長/都倉 武之
所員/阿久澤 武史、松岡 李奈(兼運営委員)
所員/クラシガ、ジェフリー ヨシオ、小山 太輝、齋藤 秀彦、
末木 孝典、山内 慶太、結城 大佑
専門員/横山 寛 事務局/福澤研究センター 兼務

来館者数

2025/9	2025/10	2025/11	2025/12	2026/1
1939名	2529名	18267名	2383名	2094名
2026/2	2026/3	2026/4	2026/5	
1485名	2982名	2632名	9190名	

諸記録

《2025年度秋季企画展 10月16日～12月13日
北澤楽天と近代日本—福澤諭吉、MANGAの扉をひらく—》
・10月16日～11月24日 懸賞チャレンジ「楽天からの挑戦!」募集
・10月28日/11月13日/12月5日 ギャラリートーク
・11月18日～12月13日 カフェ八角塔 企画限定デザートプレート提供
・11月26日 懸賞チャレンジ「楽天からの挑戦!」審査会
・12月1日～ 慶應出身漫画家の描きおろし色紙展示
・12月5日 懸賞チャレンジ「楽天からの挑戦!」審査結果発表
《慶應義塾福澤研究センター新収資料展2026 1月10日～2月7日》
《慶應義塾大学文学部古文書室 2025年度企画展 3月4日～3月26日
古文書にみる近世の村》
《東京建築祭2026 5月16日～5月24日》
・5月23日 東京建築祭2026 三田演説館、図書館旧館根根裏・免震層特別公開
・6月2日 福澤諭吉アメリカ土産の乳母車
日本ばね学会 ばね技術遺産認定(4/14表彰式)
《会議》
・11月10日 2025年度 第2回運営委員会
・11月12日 2025年度 第1回展示企画委員会
・3月3日 2025年度 第3回運営委員会

